

有明高専だより

第52号
有明工業高等専門学校
〒836 大牟田市東萩尾町150
TEL 0944 (53) 1011
印刷・重富オフセット

第二十一回

入学式式辞

本年度の入学志願者五八三名の中から選ばれた、一六一名の新入生を、本日本校に迎えることが出来たことは、本校の最も喜びとするところであります。このような厳しい入学試験を経て新入生を迎えることは、本校では十数年振りのことでありまして、諸君のこれまでの勉学に敬意を表すると共に、新入生諸君並びに、御父兄の皆様に心からお慶びと敬意を表する次第であります。

高専制度

高等専門学校教育の目的は、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」と学校教育法にありますが、高専は、大学受験や偏差値教育に煩わされない五年間の一貫教育、多くの大学のようなマスプロ教育でない少数教育、大学卒と同等の基礎学力を身につけ、実験実習を重んずる教育とによって、大学卒と異なる高度の実践的技術者を養成する高等教育機関であります。

高専制度創設のころは、「高専は中級技術者の養成機関である」というような誤った風評がありました。高専は、先に申述べましたように、「高度の実践的技術者の養成」が目的であり、また大学院をもつ

年に入学した記念すべき入学生であることに、大きな誇りと自覚を保持していただきたい。

望まれる人間像

戦後焼土の中から世界一を誇る高度成長を遂げて来た日本も、今や成長の限界にあり、特に対外的には貿易摩擦など国際環境はまことにきびしいものがあります。資源の全くない日本が、国際社会の中で生きてゆくためには、新しい技術の創造による外に途はありません。これの達成のための可能性と能力をもつものは諸君であり、その可能性と能力を引出す教育が高専を含む高等教育であります。

本校二十周年

本校は昭和三十八年四月に創設され、この四月二十日に満二十年を迎えます。本校ではこの数百年に、選択制度導入のための講義棟の新築、この第二体育館の新築、本校教育の特色の一つである総合実習センターを核とした環境開発教育研究施設の新築、この三月にはモダンな食堂を中心とした福利施設「修己館」の新築が相ついで実現し、またF.A.C.O.M.一三〇Fのコンピュータをはじめ、数々の新鋭の実験用機械が導入されるなど、施設設備が格段に整備充実されて参りました。このように、諸君は、本校が二十周年を迎え、新しく飛躍発展しようとする

人事異動

- ◎以下昭和58年2月19日付
- ▼退任▲
 - 事務補佐員(教務係) 中村 節子
- ◎以下昭和58年2月21日付
- ▼新任▲
 - 事務補佐員(教務係) 岩本美智代
- ◎以下昭和58年4月1日付
- ▼併任▲
 - 教務主事補 永田 良一
 - 学生主事補 松野 了二
 - 事務主事補 原田 克身
 - 事務主事補 村山 康雄
 - 事務主事補 大山 司朗
 - 事務主事補 塚本 邦重
 - 電子計算機室長 荒木 三知夫
 - 電子計算機室主任 山下 巖
 - 総合実習センター主任佐松尾 保男
 - 三宅 昭春
- ▼新任▲
 - 助手(化学) 水室 昭三
 - (特田製薬研究員より)
 - 会計課長 永島 勇
 - (九州芸工大会計課長補佐より)
 - 技官(建築) 桑原 孝行
 - (化学) 丸尾 三成
 - 技員(一般) 森田 恵一
 - 技能補佐員(実習工場) 木下 正作
- ▼転任▲
 - 助手 (熊本大学講師へ) 小川 芳弘
 - 会計課長 (熊本大学施設部企画課長へ) 荒木 雅紀

日常生活

諸君は本日から、福岡県南部、熊本県北部地区での、最高学府の

- 学生であります。高校はスクールですから生徒、高専はカレッジですから、諸君は生徒でなく学生と呼ばれます。諸君の一挙一動は地域の注目の的であり、最高学府の学生としての自覚をもち行動してほしい。諸君の在学中には、開発途上国から留学生が本校にも入学して来ることになると思います。諸君の中からテニサーが選ばれますが、全校学生が国際感覚を身につけて協力しなければ、教育における日本の国際協力は成功しません。
- 最後に、五年間の一貫教育では一般教育と専門教育が一步一歩進められますが、大学入試の刺激がないために、ややもすれば諸君の心の持ち方次第では、途中で脱落する人が出て参ります。日常、先方生方に積極的に近づき、互に信頼感をもつようにつとめ、入学のときの初心を忘れず、五年先に諸君が揃って、卒業の日を迎えることを祈ります。
- 入学式にあたり平素の所懐の一端を述べ式辞といたします。
- 昭和五十八年四月九日
- 有明工業高等専門学校長 吉村 虎藏
- ▼退任▲
 - 技官(実習工場) 後藤 義一
 - (化学) 高口 一枝
 - (化学) 中橋 正行
- ◎以下昭和58年5月1日付
- ▼昇任▲
 - 庶務主任 中島 正嗣

本日、来賓各位、御父兄の皆様、雇用の不安が広がる中で、企業の教職員一同、在校生代表多数参加のものと、本校第十六回卒業証書授与式を挙げて、これからの技術革新の時代を荷う若く洗練とした卒業生二三名を社会に送ることができるところであります。

高専制度二十年

大学入試、偏差値教育に煩われない、五年間の一貫教育と、豊かな教養、基礎理論・実験実習、スポーツ精神を重んずる教育を通して、高度の実践的技術者の養成を目指す本校は、創立以来二十年を経て参りましたが、諸君が生まれて来たわけでありませぬ。この間、高専卒者のための技術科学が、高専卒者のための技術科学が設立され、また選択制度の導入による過密な教育課程の解消

新しい技術を目指して

きて、最近、経済不況長期化と

去られて来た時代でもありません。日本固有の文化、日本の心を国際的に広めようと活躍されている一人に、茶道の千家宗室がいられます。同氏の「直心(じきしん)の交わり」という一文に、次のように、お茶では、客のために主は、自分を道具の取合せ、床の飾りなどのすべての準備をし、水運び、薪をとり、火で湯をわかしてお茶を点てる。そして、神仏に供え、客に与え、われも喫む。苦勞をした自分分は一番あとです。客が帰られたあとは、客に対して足りなかつたことを虚心に振り返りながら、炬を前に余情残心の境地に入り、明日に対する新たな心構えを日々に

第16回卒業式

「新入生歓迎行事」について
去る四月二十九日、予定されていた歓迎遠足が前日の大雨の為に中止され、代わりに科別の歓迎行事が行なわれた。今年はいくつもの行事がトラブルもなく終了したことは本当に良かったと思う。さて、感想であるが、一番強く感じたのは、歓迎行事の意義についてである。最近の歓迎行事は単に四月にあるから、その様子を写すのであって内容はその意気からは遠く離れたまわっている様子がうかがえる。遠足にしても山に登っておしまいというのでは余りに味気なく、それならいっそ鍛錬遠足という名前にした方がよいような気がする。

誇りと自信

五年間の水い学園生活の中で、諸君は沢山の貴重な経験をして参りました。一致協力して準備した高専祭、見事な出来栄の体育祭、地区並に全国体育大会での活躍、それに至るまでのためめ鍛錬と合宿生活、その他数々のクラブ活動、研修旅行、卒業研究卒業設計、規律愛護調率仕事をモットーの啓蒙生活、学生会役員としての積極的な活躍、全国表彰の普行学生も諸君の級友の中から選ばれましたが、これらのことが諸君の誇りとなり、無意識のうちに、社会生活での諸君の自信につながるものと信じています。

「新入生歓迎行事」について
去る四月二十九日、予定されていた歓迎遠足が前日の大雨の為に中止され、代わりに科別の歓迎行事が行なわれた。今年はいくつもの行事がトラブルもなく終了したことは本当に良かったと思う。さて、感想であるが、一番強く感じたのは、歓迎行事の意義についてである。最近の歓迎行事は単に四月にあるから、その様子を写すのであって内容はその意気からは遠く離れたまわっている様子がうかがえる。遠足にしても山に登っておしまいというのでは余りに味気なく、それならいっそ鍛錬遠足という名前にした方がよいような気がする。

終りに、有明高専および高専制の度々の御健闘と御活躍を期待すると共に、御健康と御発展を心から祈念し告辞といたします。
昭和五十八年三月二十三日
有明工業高等専門学校長 吉村 虎蔵



日本の心

諸君が育ったこの二十年は、経済の急成長期であり、物資の豊かさ、生活の合理性のみが追求されて、「人の心」が多くの人の心から忘れられて来たように感じます。

新任教官の二つば

工業化学科助手 氷室 昭三



景気が冷えこんでゼロ成長に近い景気停滞、軍事衝突より経済衝突といった世界情勢の中で我々に与えられた使命は何だろうと不図考えることがあります。
熊本大学を出て製菓会社の研究所に三年間勤めてまいりました。そこで修得してまいりました事を少々述べさせていただきます。今や各企業は鍋を削って新製品の開発に血眼になっております。それは、他社の模倣した製品ではもはや利潤を得ることが難しく、各社独自の製品を出さねば会社の運命が危くなってくる時代になっているからです。

私はこの四月より独創性に高んだ研究に合わせて新たに教育と事に取ってチャレンジしてゆけば、教育については初体験でうまく表現できませんが、ベーパーだけの教育でなく、目で見て、耳で聞いて、手で触ってわかる教育、すなわち、五感にうったえる人間教育を目指したいと思っております。がんばりますのでよろしくお願ひ致します。

一転任にあたって一

小川 芳弘

熊大へ転任してもう一カ月が過ぎようとしています。現在は学生実験以外に、法学部と教育学部文系に化学の講義をしています。また、理学部化学科から預った大学院生3人、四年生2人の研究指導をしています。しばらく高分子の溶液論と離れていたので、今必死で学生と共に勉強しています。最近、文系のある学生が「メタン、エタン……」の構造式がわからない、ジュールが何の単位かわからないと質問して来ました。よく聞いてみると、大学入試では生物と地学を選択したとのことでした。言われてみれば私も数年前、予備校で教えていた時、文系学生には「よほど物理と化学が好きなら以外、生物と地学を受験しなさい」と指導したのを覚えています。教育とは、後々までさまざまな形でかかわってくるものだと改めて身につまされる思いがしました。

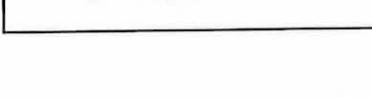
高専にいたのは、ほんの二年半でした。自分では精一杯学生とのコンタクトにとめたせいか、楽しい思い出がたくさん残りました。一昨年の高専祭で私が指導したのうた「アキラメ」は、廃油からの石けんの合成と云うテーマでした。廃油独特の臭い

完全に消すことができません、香料を入れたためかえって変な臭いが出て、市販品のようなものにはなりません。それでもみんな一生懸命つくってくれました。寮生には、臭いにもめげずたくさん使っていたらいいと思うので、今年こそは売れるようなものをつくりたいと思っていたのに残念です。

今、転任に当たって学生に一つの言葉を贈りたいと思います。それは、「心を開いた時だけこの世は美しい(ゲテ)と言います。いつも心に

そこで、我々に要求されるものは時代先取りした先見的獨創性です。獨創性といっても頭の中で空回りするようで、具体的にどうすればいいのだろうという疑問にぶつかります。しかし、この具体的方法を見つけて出すのは、各人それぞれで、非常に大事なことです。

昭和58年度 年間行事計画
4・8 始業式
4・9 入学式・入寮式
4・11 新入校内内オリエンテーション
4・20 開校記念日
4・24 新入生オリエンテーション(天草)
4・29 遠足(雨天)新入生歓迎行事
5・8 寮生球技大会
5・12 春季球技大会
5・15 前期中間試験
5・18 寮祭
5・19 父兄懇談会
5・21 夏季休業
5・22 九州地区高専体育大会



昭和58年度 新入生オリエンテーションを終えて

1 M 藤井 直人 1 M 担任 宮川 英明

私にとって二泊三日の研修旅行は初体験で、どんなことをしているのか分からず、とまどいもありました。けれど、今では楽しい研修旅行として、心に残っています。ところで、私たち有明高専の学生は、連帯行動を目的として天草青年の家にきました。「共同生活。オリエンテーション」など、さまざまな面で、たいへん貴重な体験をしました。

ある先生がおっしゃった話ですが、「たった二泊三日では、この社会の中では、無力に等しい」。先生が私たちに、何を伝えたいのか分かるような気がします。今は、そう深く考えないにしても、私たちが、社会に出ていけば、切離すことのできない重要な事柄の研修をもとにして、これからの五年間、いや、社会に出て、世間に信頼され、なおかつ、自分の意志を貫き、多くの人間と接し、社会人のひとりであることを認識した、大きな人間に一步近づきたい。

1 E 前田 和喜
強く心に残っているのは、オリエンテーションとキャンパスのついでです。山や道をグループで探

1 E 担任 深野 佳和
雲一つない青空。定刻前に集まった学生一人一人に浮かぶ笑顔。こちらまでつい引き込まれ、今にも躍り出しそうな心を抑え抑え、バスに乗る。彼らとつき合い始めて一週間。やつと顔を見せると即座に名前が口から出るようになる。学校を離れ、彼らがどんな姿を見せてくれることやら。期待と不安がつかまどう。

1 C 担任 石橋 助吉
バスで校歌の練習をしながら、未だに堅い様子の学生をみて、これからのオリエンテーションについて幾らか危惧していたが、長時間開乗車後、青年の家人式で学生

意が向く。またあいつが下を向いている……。オリエンテーションなどはさすがに元気だ。ほっと安心する。帰りのバスで気を抜いたのが失敗、彼らの狂態にブレーキが利かなくなる。ヒヤヒヤし通しの三日間。彼らとの二人三脚はこれからがいよいよ本番である。

1 C 浜地 憲治
この天草青年の家へ研修に来ていろんな事を得たと思います。自分に厳しく、他人にはやさしくする事、決まった生活時間を守る大切さ、挨拶一つで、友人が出来る一日楽しく過せる等。今まで気楽に考えていたものがこんなにも大切だということ。何も一人で出来なかつた自分に、自主性がつき、連帯、協調性、決断力を教えられるオリエンテーションや楽しかったキャンパスの集いの無事に終り、良い思い出として僕達の胸にいつまでも残るものと思います。

1 A 貞末 高志
キャンパスの集いの時、キャンパスの火を見て、何か新たな希望が少しづつ湧いてきた。そしてみんなで楽しく遊ぶ時間が過ぎて、もう一度キャンパスの火を見ると、さらに希望が湧いてきた。火というものはとても素晴らしいものだということに改めて気が付いた。

二日目の夜はなかなか寝付けなかつた。オリエンテーションの時見た美しい自然とキャンパスの火が頭にちらついた。しかし、気がつく朝だった。この青年の家とも、もう少しで別れだと思つて、何か物悲しく思えてきた。

二泊三日の研修を終えて、本当にここ天草青年の家へ来て良かったと思う。そしてここで美しく広大な自然と、キャンパスの火だけは、絶対に忘れないでおこうと思う。

1 A 担任 徳田 仁
天草はいつ訪れても美しい。海は青かった。山野は緑に包まれ、空には鷲が舞っていた。木立には鶯のさえずりが聞こえ、大気は自然であった。そして夕日はオレンジ色に映えていた。

学習だより

「玉磨かざれば光なし」
寮務主事 仁田原 元

いくらよい素質をもっているでもそれを磨くことを怠れたならば、人間としての光、価値はでてこない。どんなに多くの人が自分の真の力を出し切れずに終ってしまったか、勿体ないことである。世の中が子供を大切にすること、甘やかすことではなく、どのような苦難にも打ち勝てる強く、逞しい子供を育てるということであり、今自分は、自分の何を磨くべきか、どんな努力をすべきか考えてみて欲しい、人生における、幸福とは、心の問題である。その日、その日を充実した生活している人には、人生は真面目な生甲斐のあるものと思われよう。うし、又単に一日が無事に終わったと言うのでは人生、消極的すぎはしないのだろうか、毎日、何かの意味で進歩できた人、いや進歩の為に努力した人が幸福なのではなからうか、たしかに物質的影響を受けやすい世の中ではあるが、幸福とは物質そのものではないはずである、学ぶべき人が、怠けるこ

寮生指導者研修

寮務主事補 塚本 邦重

四月六日、主事室、寮務係、寮生活について討議を行った。主事の挨拶に始まり総務より生活信条、各局長より抱負、それに続き寮宿舎規則、寮生心得と会は進行していった。寮生心得の中でさらに、沈黙帯(他室訪問禁止) 沈黙帯(他室訪問禁止) 点呼(点呼時の態度)

寮生はしっかりしているか?

寮務主事補 大山 司朗

最近、始業式と終業式での校長先生の言葉の中に、寮生を誉められたものがよく見受けられる。例えば、挨拶は寮生は良くできているのだがとか、寮生は良く頑張っているのだがとか、通学してきているのだがとか。通学して比へて寮生がいかにもしっかりしているように聞き取れる。主事補を引受けて四年目になり、寮内、寮生をよく見るにつけ、「はたしてそうであらうか」という感じが強く受ける。挨拶に関しては一年生が寮を代表してよくしてくれている。しかし一年生だけではない。上級生は寮生と通学生に差はないと感じる。すべてのことにつけ、二年生になった途端なぜか、二年生になった途端なぜか、なにが出来るのかと思うほど変わってしまう。挨拶、ラジオ体操、勉強、掃除などを一年生と上級生では格段の差がある。勉強に関して沈黙帯という静かさを

私が有明高専に赴任して、まず興味を持ったのが邪馬台国である。東には筑後平野をひかえ西には有明海が広がっている、この温暖な地に食料は豊富である、冬でも魚貝類は取れたらうし、古代人達は先を競ってこの地に集まってきたであろう、そして一大集落が出来たはずがない、邪馬台国は当然筑後から玉名にかけての有明海沿岸にあったであろう、短絡ではあるけどそう決めたのであつたのである。明治以来多くの人が邪馬台国の地を推理した、畿内大和、筑後山門からジャワ、スマトラまで、しかしどれ一つまだ確証は無い。多くの人が三国志の魏志倭人伝によつて推理しているが、もともと魏志倭人伝の作者が聞きつづけて書いたもので距離、方角など曖昧でありこれによつては決定できない、また邪馬台はヤマトとは読めず邪馬壹国ではないか。畿内大和説の有力な手がかりとなつた、景初三年の銘のある三角縁神鏡も魏志とは断定できない、理由は簡単である、三角縁神鏡は中国大陸からはかつて一枚も発見されていないからである。古事記や日本書記などの情報も、六世紀以後の大和朝廷によつて政治的意図でつくられたので決め手にはならない等々であり、どれも邪馬台国

変わりゆく古代史

寮務主事補 原田 克身

問題の解決には用いられない。また最近青銅器文化圏でも日本古代史は新しく塗り変えられつ、ある青銅器文化圏とは畿内の銅器文化圏と九州の銅器文化圏とされてきたが、ごく最近北部九州を中心とする西日本にも銅器文化圏があつたことがわかつてきた。銅器は何か吊るして振りなす音響具でありそれから次第に実用性から装飾性への変革をよぎなくされたが、いまだに何んに使われたのかはつきりしない、そしてある時期に一世いに破壊されたのである。これを意図的のものか、非意図的のものか、非銅器文化圏の人々の手によつて惹起された破壊行為と考える。そとからの権力移動とすの想定があるが、いまだに謎である。我々は邪馬台国問題も真実からだけ判断すべきで、まず卑弥呼が魏の天子より授けつた親魏倭王の金印と魏鏡、徑百餘歩の卑弥呼の墓を発見すれば邪馬台国論争に終止符がうたれるだろう。このように日本古代史は新事実の発見により変換を余儀なくされている。諸君もいかなることに疑問をもつ精神を身につけて、疑つた後に真実を見い出すこと。学問は鷓鴣呑みにすまいぞ、まず疑つてかかると。

学生生活の問題とその指導について

学生の福利、厚生補導の担当者として、健全な学生生活、質実にして活力に充ちた学生像を求めて言い換えるならば、校則、交通道徳を守り、礼節を弁ませ、知的好奇心に富む青年像を求めて、厚生補導委員、正副担任の協力を支え、歩み続けて五十七年度も過ぎて行った。この間、大方の学生は今年も健康で着実な学生生活に終始し、進級したことを先づ喜ぶ。しかし、五十七年度も、自らの将来を切りひらくことが出来ず、本校を去った不幸な学生がいた。また交通事故に遭い、ヘルメットを正しく着けていたため一命を捨て重傷を負った学生もいた。

ともかくも、人命にかゝる重大事件に至らず大多数の学生が新年度を迎えたのは、教官各位の日常の配慮と指導の賜物である。

そこで、前回にない、その御苦勞を伺うべく、「五十七年度を顧みて——学生生活の問題とその指導について——」記述形式で自由に書いてもらった。今回は紙面の都合で、前回よりも内容報告が

これはHRにおいても考慮すべきことであるが、当面一つの実行可能なこととして、

○二年の問題と指導について
これについては昨年と特に変わった特徴は認められない。各組とも高専生活で最も難しい時期に当る二年次を如何に指導するかに苦心される。M科では交通違反、事故件数が校内で最も多いという現象を捉え、違反者に一人づつ、自らの反省を発表させ、全員の関心を求めたところ、好結果が出たとの報告があった。環境整備(清掃)については各組とも努力したが、比較的「不真面目な学生」の数が一定数を越え、組として健全な機能しなくなり、この問題は尚未解決のようだ。

M・E科の担任教官は毎日のHRで学生の様子をよく観察し、接触することに努めたが、これは矢張り基本的な大切なことであるという認識を得たこと。C科担任も指導する通り、最近の学生は心身の発達に相当のアンバランスがあり、精神的に幼いので、毎日の出欠、教室の環境整備を丹念にチェックし、一方義務と責任の観念を育て、人の話をよく聞く態度が身につくよう、ねばり強い指導が大切である。A科の担任は学生の言語感覚の未熟さ(常識のなさ)を問題として扱えた担任と学科との意見の調整の大切さを指摘する。

勉学については、学生達は食欲がないのに食事を与えられる状態にあるので、どうして食欲をつけるかを工夫しなければならず、相手を知る為には我々は中学の教科書を熟読すべきだという意見があった。

二年、三年次は青年期後期のいわゆる反抗期に当り、それに①高専生活一、二年の経験と慣れからくる精神の弛緩 ②バイクに対する強い関心 ③異性に対する関心などから、彼等の情緒の安定が一変する危険性が高まると同時に、我々としても学生の日常生活状態の変化に一段と注意する必要がある。

○三年の問題と指導について
三年生の問題も二年と同様に年と特に変わった特徴はない。そこで今年も各担任は揃って留年しそうな学生、言い換えるならば、有明高専に適應しない学生についての指導について述べている。

高専に不適應のため、学校を去る原因、理由を見てみると、①アルバイトで学生生活が崩壊した。②音楽に熱中——自己の価値に固執——③進路変更(大学)④家庭——親子関係の乱れ、⑤異性問題に絡む生活の乱れ、⑥内省力不足短絡的自己中心主義、甘え。⑦友人関係なし——孤独——などが主なものとなる。

しかし或る学生について更に詳しく見ると、④が主たる原因で②に没入することで、④の苦悶を消そうとしているという場合もある。こんな具合に、家又は親と子の人間関係のたまたま問題が担任の指導の大きな障害となる。両親の愛憎の渦に巻き込まれて、多感な子(学生)は懸命に苦しみを堪え忍んでいる。しかしそれが限界に達し自ら律し切れない状態までなると、教官は如何なる方法で彼等を慰め元気づけることが出来るのか。

NHKが五月五日「子供の目」に父親は如何にあるべきか」というような題で講師を中心に視聴者参加番組を放映して、その中で作家の笹沢左保氏は親の責任を力説していた。親と似た立場で我々も「教師の責任」についてどのように認識し、どのようにその責任を全うしていくのか考えねばならないと同時に、自らの存在理由を明らかにし強固にするための努力を忘れてはならない。

このように教官特に担任教官の仕事は奥行きが深く、今日の様に価値が多様化した社会の中では特に難しい。そこで副担任の強力なバックアップが何より大切となるが、一種の登校拒否症の学生指導に苦心する担任が副担任が献身的に協力した例が、担任から深甚の謝意を込めて報告されていた。

○四年の問題と指導について
四年の共通問題は、喫煙、交通違反、事故、異性との交遊問題などであり、C科では特に成績不振者の問題に科の方針として特に強力な指導が行われた。

各教官は何れの問題解決にも家庭の協力を求めるため父兄を召喚し学校の方針を説明し、親子、学校が共通の認識に立って本人の以後の問題解決の努力に力を添える様工夫されたが、一部には尚家庭本人の認識に甘さがあり、問題改善の努力と忍耐に欠ける例があると報告された。

しかし教官は決して指導を諦め、根負けしている訳ではなく、例えば読書を通しての指導、個人面接指導等緩急を心得た指導態勢にあるとの印象を受けた。

○五年の問題と指導について
全体的に言えば、五年生となる就職、卒業研究などが切実な問題となり、最上級生としての自覚と緊張感、そして精神の昂揚が感じられ、出席状況もよくなった。これは教官が個人指導に相対力を注いだことによるものかも知れない。

しかし、就職事情が進展し、学生の採用内定が始めると、学生の一部には卒業に必要最低の勉学意欲しか見られず、教官の忠告助言にも素直に従わず、謙虚さに欠け、自信過剰に陥るという傾向が見られたということだ。また成人

式の時期になると、卒業も近く、車を利用して遊び回る浅薄な学生がいること、そして下宿は寮生通学生生の溜り場となっていて、下宿生の指導は一層注意が必要となることが指摘されている。

ところで建築学科では個人指導、ひいては就職指導の資料として、学生自身に詳しい個人調査作りを指導しているという話であるが、これは更に工夫すれば五年間の高専生活の個人の記録として貴重なものとなると同時に学生の面接指導の恰好の資料となるのではなかろうか。

A 学科担任教官は学級日誌を利用した指導に着目し、丹念に継続的に日誌の記載内容について指導したところ、学生もその指導にフオリするようになり好結果を得たとの報告は他の参考となろう。

次に学習面について言えば、C 学科は学科主任教授を中心に、相当の熟意と覚悟で学生の指導に当られ、保護者の学校召喚の場合は激論の場と化す時もあり、それだけに予想以上の効果があったと聞く。またE 学科では、非常勤講師の授業をサポートした学生の浅薄な権利主張に対して担任教官は、豊かな会社経験と高い見識とを以って、厳しくかつ柔理を盡した説諭をされ、学生の将来のために一歩も引かぬ態度を貫かれたという。

以上、今回は最初に断つた通り筆者なりに各担任教官の回答記述

内容を端折り、極めて簡略化したまとめとして報告した次第である。ここで潜越ながら回答を拝見しての感想を述べさせていたたく、それぞれの回答に各担任教官の一年の御苦勞が見事に反映しており、また各教官が自らの持ち味と工夫で学生達と四つに組んだ姿を想像し、感動を以て読ませたい。親が漫然として生きていて親の權威を無闇に振りかざしても子供を心服させることは出来ない如く、我々も常に或る高きものを求めて広義の勉強を怠らぬ姿勢を堅持し、学生の将来の人生に資する気魄に欠けるところがあつてはならぬと思つた。

草柳大蔵風には「職業のアイデンティティ」を確立しなければならぬのである。(学生主事)

昭和五十七年八月末着工以来、工事の進捗につれて次第にその全容を見せて来た福利施設が、昭和五十八年三月十二日、竣工検査を無事終了した。福岡工事事務所、本校関係者、建築学科の方々の御努力で九州地区で最も美しい内容も整った施設が出来たとのことである。

建物は総面積880㎡、鉄筋コンクリート平屋建、一部二階で、一階には保健室、研修室、食堂、喫茶コーナー(一九〇席)厨房、売店、

便所など(53㎡)があり、二階には展示ホール、音楽鑑賞室、ミーティング室、資料室(317㎡)がある。

建物は建築学科棟、電気工学科棟西側の通路横芝生の部分に建つていて、

建物の完成を真近かにして、幾つかの候補名を用意し教職員、学生会役員に投票を以て名前を選んでもらった結果「修己館」が多数を占め、そのように命名呼称されることとなった。

食堂は従来のものに比べると約二倍に近い席数があつて、室内が明るく清潔な感じの雰囲気仕上つているのが嬉しい。

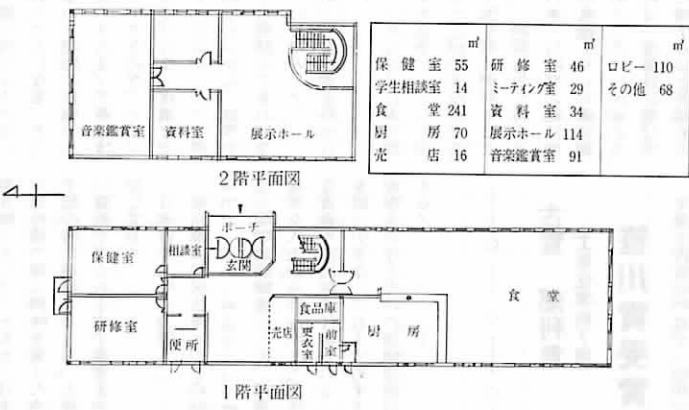
食堂の食事は給食事業に実績のある会社が担当し給食していて、四月新学期開始と同時に営業を始め、連日学生諸君の旺盛な食欲を充たしてくれている。

第十六回卒業生は美しい施設の完成を見ながら一回も利用することなく本校を後にするのは気の毒



福利施設「修己館」3月末完成

福利施設「修己館」平面図



日本青年海外協力隊について

日本青年海外協力隊について (JAPAN OVERSEAS COOPERATION VOLUNTEERS)

電気工学科9期 蓮尾 巧

政府機関の末端の末端に日本青年海外協力隊という開発途上国への技術援助を目的とした事業団がある。それに2年間参加していたので協力隊について、PRを兼ねて述べてみたいと思う。協力隊の英訳がVOLUNTEERSとなっていて、奉仕精神に満ち溢れた青年の集まりかと思われる。しかしこれではどんな青年の集まりなのか掴みどころがなからうからまあ非ボランティアの集まりとでも言っておこう。

さて実際にどういう活動をするのかということの説明の前に、南北問題について少々述べさせて貰おう。

今日世界の文明の発展度を観察すれば北側と南側(熱帯地方の国々)に歴然たる違いがあることが分る。北側が進み南側が遅れている。そして一般に文明の進んだ北側が高裕で、そうでない南側は貧乏だというダブルパンチも食っている。富裕な国が貧乏国を食え、妻もなけりやのたれ死ね、と言えないのが複雑に絡み合った今日の国際事情で、南の国の発展なくしては北側の経済的安泰・成長もおぼつかない。しかし現実

はいかんせん南北の貧富の差はますます開きつつある。貧乏な国なら金をやれ、といってそれで済むのならとくの前南北問題は解決しているはずなのだが、実態は援助金を出してもそれはたいがい権力層のところでストップし庶民レベルまでは行き届いていない。それでそういう不正が行なわれないうちに現金をポンとやっつてハイ援助というのを止め、これからは技術援助を主体にしようということになってきた。つまり技術移転の過程において同時に人遣りをする。それが巨視的に見れば国遣りをする訳でもある。まさに一石二鳥とも言おうか。

さて南北問題についておぼろげながらも分っていただけだと思ふので、いよいよ協力隊の概況を述べさせてもらおう。今も述べたように、協力隊の旗印は技術協力による南北問題の解決ということになっている。現在発展途上国からの援助要請は東南アジア、アフリカ、中南米などの国々20数ヶ国からきている。その要請内容も、農業、保守加工、教育、スポーツ等多岐にわたっている。協力隊への参加資格としては、技術を持った20才から35才までの心身共に健全なる

青年(勿論女性も可)なら誰でもよい。誰でもよいとは言っても、むろん選考試験はある。試験は年二回行なわれており、技術、作文、英語の試験があるが英語は高校一年程度の力があればパスできる。第一次試験が各県で、二次試験が東京で行なわれる。業種にもよるが概して試験は難かしくない。

二次試験にパスすれば隊員候補生として約4ヶ月国内で派遣前訓練(主に語学訓練)を受け、その後別段悪さをしなければいよいよ晴れて日本青年海外協力隊員となる。派遣期間は2年。現地手当で金(約300ドル)とは別に国内積立て金(毎月8万円強)もあり経済的心配は無い。派遣後は現地の生活に飛び込み任地で黙々と働くのである。時には教え時には教えられるが、もちろん9日には教えられる。時には教える本人は自分一人である。私は56年1月から58年1月までの2年間、強しようではもう遅い。君は海の時、外国に行つてから英語を勉強しよう。

今からの世は国際競争の時代だ。俺は高専生、海外なんか行きやせんガネ、とかなんか思つていてもどっこいそうは問屋が卸るさな時代になってきた。その時はそれの時、外国に行つてから英語を勉強しようではもう遅い。君は海の時、

マレーシアのアロースターという人口5万人位の小都市にあるVOCATIONAL SCHOOL(職業訓練校)でテレビ修理を教えていた(業種は電子機器)。

そのマレーシアでの2年間に誰に感謝していいのだろうか、罵られたい勉強をさせてもらった。これは電気(私は電気科卒)の勉強というのではない。マレーシアの文化、人々の生き様、肌の色、等々、日本にいてはどうも分らないことを毎日生活を通して勉強させて貰った。本当はそれらについて書きたいのだが、読者の方にとってはあまり興味が湧かないであろうから書くのは止める。その代り学生の諸君に、マレーシア生活を通して感じたことを2点言わせてもらおう。

ひとつ。英語を勉強しろ。英語を勉強しろ。英語を勉強しろ。英語を勉強しろ。英語を勉強しろ。

華僑のバイタリテイ、肌の色、等々、日本にいてはどうも分らないことを毎日生活を通して勉強させて貰った。本当はそれらについて書きたいのだが、読者の方にとってはあまり興味が湧かないであろうから書くのは止める。その代り学生の諸君に、マレーシア生活を通して感じたことを2点言わせてもらおう。

ひとつ。英語を勉強しろ。英語を勉強しろ。英語を勉強しろ。英語を勉強しろ。英語を勉強しろ。

ひとつ。英語を勉強しろ。英語を勉強しろ。英語を勉強しろ。英語を勉強しろ。英語を勉強しろ。

向こうの地で誰に当りようのない屈辱感を味わうことになる。そう、英語を喋れないと現地の日雇い人夫からも馬鹿にされるゾゾ英語は教養のバロメータなのだ。ドイツ語はいいころかげんな一夜漬けて試験を受けてもよいが(？)、英語だけは舐めたらいかん。世界中どこへ行つても英語ができればなんとかなる。いやほんと、そして二つめ。一度日本を外から眺めてみる、日本にずっといたんでは日本の価値観で、日本を基準にしてしか国際社会を観ることができなくなる。それは相手国を真に理解することとは難しい、誤解も生じ易からう。今日の日本・日欧間の経済摩擦やその他の軋轢も互いの価値観を誤解しないところに一因がある。だからできれば一度海外に飛び出して異文化に接することを奨める。そうすれば相手国の価値観も少しは分り、相手国の立場から日本というものを見つめることもできる。日本を基準にした相手国ではなく、相手国を基準にした日本という見方ができるようになる。ただし海外へ出ると言つてもバック旅行だけ止めて載きたい。あれは新婚旅行の時だけ利用するもので、その国を勉強しに行くのなら地図を片手に自分の足で歩いてこれられることをおすすめする。

後半、話が青年海外協力隊から少し、横道へそれたが、それは御外へ出ると言つてもバック旅行だけ止めて載きたい。あれは新婚旅行の時だけ利用するもので、その国を勉強しに行くのなら地図を片手に自分の足で歩いてこれられることをおすすめする。

また、学科別では、ここ数年機械工学科・電気工学科は比較的安定した伸びを示しているものの、工業化学科・建築学科はや、低調気味で、今後の盛返しを大いに期待したいものです。

古賀 郁利君 (工業化学科7期)

卒業生古賀郁利君が「昭和57年度笹川賞吹奏楽曲」懸賞(日本国民音楽振興財団の事業)に、行進曲「広場にて」を応募、職業音楽家・音大卒業生を抑えて第一位を獲得、この程楽譜も出版された。

古賀君は49年C科卒、大会社在職中も音楽への情熱止め難く退社、イタリアに渡りサバティニ、フエラーラ両氏に師事、帰国後は業に励み傍ら、本校吹奏楽部の指導にも力をかしてくれている。

なお、「広場にて」の楽譜及び演奏テープを寄贈いただき、吉武先生が保管しておられる。

有明高専図書館だより 42

本年度は、館長、係長以下のレックス係)に質問して欲しい。その第一は、まず何よりも辞書・事典類などのいわゆる参考図書

その第二は、読書活動の一層の活性化をはかりたいということである。つまり、図書館としての「読む」機能を維持拡大することも勿論大切であるが、とりわけ近代化された今日の社会での「調べ」機能を発展させることをより以上に重視したのである。本年度から学習閲覧室内の東側の書架に参考図書類を集中配架することにしたので、検索がし易くなったことと思う。学習・研究上の疑問は直接図書資料にあたって自ら解決すること。わからないときは「参考図書目録」を見れば、あるいは係の人(レファ

これからの図書館運営の構想

図書館長 丹後 杏

その第一は、読書活動の一層の活性化をはかりたいということである。つまり、図書館としての「読む」機能を維持拡大することも勿論大切であるが、とりわけ近代化された今日の社会での「調べ」機能を発展させることをより以上に重視したのである。本年度から学習閲覧室内の東側の書架に参考図書類を集中配架することにしたので、検索がし易くなったことと思う。学習・研究上の疑問は直接図書資料にあたって自ら解決すること。わからないときは「参考図書目録」を見れば、あるいは係の人(レファ

- 昭和58年度 図書館スタッフ紹介
- 図書館長 丹後 杏
 - (図書館運営委員)
 - 機械工学科 小田 明
 - 電気工学科 近藤誠四郎
 - 工業化学科 城戸 英彦
 - 建築学科 北岡 敬郎
 - 一般科 中村 安生
 - 花田富二夫
 - (事務部)
 - 庶務課長 合志 昭夫
 - 図書館係長 富川 喜巳
 - 戸上 清子
 - 足達 雅代

昭和57年度学科別貸出図書冊数調

(延入館者数27,804人 開館日数297日)

学科	学年	利用人員	貸出冊数	内訳									
				000	100	200	300	400	500	600	700	800	00
機械工学科	1	220	294	4	7	24	8	67	50	6	58	2	68
	2	178	226	6	3	31	15	36	37	0	35	17	46
	3	198	252	11	9	8	10	66	78	0	8	6	56
	4	139	218	8	1	1	3	30	144	2	12	2	15
	5	92	122	8	3	0	2	7	70	1	2	0	29
計		827	1,112	37	23	64	38	206	379	9	115	27	214
電気工学科	1	252	334	7	3	9	4	84	142	11	25	2	47
	2	403	538	53	15	39	11	75	165	0	24	30	126
	3	210	262	8	8	2	3	73	125	0	13	4	26
	4	328	484	14	5	4	7	30	356	1	23	5	39
	5	390	540	12	2	8	12	23	395	1	4	5	78
計		1,583	2,158	94	33	62	37	285	1,183	13	89	46	316
工業化学科	1	22	32	0	4	2	1	4	0	0	5	0	16
	2	209	258	10	11	25	10	124	11	2	2	7	56
	3	200	249	10	21	8	9	126	33	2	7	7	26
	4	92	132	3	3	7	5	29	35	2	8	3	37
	5	172	239	7	0	2	7	121	60	1	15	1	25
計		695	910	30	39	44	32	404	139	7	37	18	160
建築学科	1	133	172	2	6	14	3	25	66	1	23	4	28
	2	164	203	3	3	15	5	9	100	2	10	4	52
	3	168	211	1	3	10	7	50	92	3	5	3	37
	4	152	217	1	2	7	4	5	106	0	13	2	77
	5	194	273	6	4	4	4	3	221	2	1	0	28
計		811	1,076	13	18	50	23	92	585	8	52	13	222
総計		3,916	5,256	174	113	220	130	987	2,286	37	293	104	912

◎軟式庭球
 我々軟式庭球部は、今年五年生が二名しかいませんが、三年、四年の技術向上を計り、全国大会出場を目指しています。新メンバーは四ペアとも技術的にはめざましく向上しており、スピードもついてきたので、あとは体力強化をして、一層充実させるつもりです。今年こそは個人戦、団体戦ともに全国大会に出場できるように、高専大会に向け、部員一同毎日練習に汗を流し、励んでおります。

◎水泳
 初夏を思わせる今ですが、これからがシーズンとなる水泳部では、今年新たに4年5人、1年4人と計9人の部員が加わり、また4月末から泳ぎ始め練習にも熱が入る毎日です。今年、前記のように部員が倍増したこともあって、今迄以上の練習で、より多くの入賞者を出し、優勝を目指して、頑張りたいと思っております。

◎卓球
 卓球部は、現在12名と人数こそ少数ではありますが、去年のレギュラーから一人欠けただけなので、今年は、レギュラーメンバーをあ

◎柔道
 我々柔道部は、少数部員ではありますが、今年度は、高専大会に力を入れています。練習内容も、向ける意気込みは近年まれにみるものがあります。体格についても他校に比べ劣りますが、その点については、筋力強化と技術向上で

◎弓道
 我々弓道部は、昨年の高専弓道大会で、進優勝はできたものの、優勝した高知高専にわずかに一本差で負けてしまいました。この一本差はまさしく精神力の差であったと今なお痛感しています。この夏、我々は燃えます。開魂の旗の基我々は力のかぎりボールを追います。

◎硬式庭球
 新入部員も迎え、我々は七月下旬に行なわれる予定の全国大会予選にむけて、各自が勝つて、心掛け毎日の練習に励んでいます。今年、練習内容の改善、充実、クラブの和を高め、四月より四年生がクラブをまとめ、指揮をとって練習を行い、五年生はそのアドバイザーとして毎日の活動を行っている。これから七月まで基本練習から

◎陸上競技
 今年は期待の持てる新入生の入部で総勢30余名という大所帯に変わりを迎える。まずは量が揃ったので今度は質の充実を計っている。毎日の限られた時間内で最大限の能力を引き出している。今年の布陣は前同、走高跳3位で今回全国上位を狙う安達を筆頭に、長距離陣の充実もめざましい。フィールド陣も実力選手の加入で強化。とにかく部員増進で練習も熱を増し、ストップ・ザ・佐世保を目標に、着々と7月の地区大会を待ち望んでいる。

◎剣道
 日本は、「高武」の国と言われるごとく、健全を真の平和を築くための武道を重んじます。その剣道は、格技として、一対一で行い試合をするからには勝たねばなりません。我等剣道部は、多人数、短時間、狭い場所などの条件で精一杯練習に励んでいます。また、試合の勘を掴むため数多くの相手を求める稽古にも積極的です。

◎バスケットボール
 こ二数年全国大会に出場していない我々バスケット部は、有望な新入生も加わり、今年こそチャンピオンリーグを勝ち取ろうと日々の練習に励んでいます。そして今年、昨年の予選リーグで惨敗を喫した久留米高専との対戦も決っており、部員一同昨年の屈辱戦に燃えています。とにかく、大会後に悔いを残さぬように、今をベストで頑張りたいと思います。

◎サッカー
 サッカー部は、現在部員41名一丸となって練習に励んでいます。今年、久留米高専との合同合宿などにより、大きな成果を上げており、チーム力も二三年前向上し、昨年のレベルに達しています。昨年同様、多くの試合を消化していますが、特に今年、鹿児島、熊本などに積極的に遠征し、強豪チームと練習試合をやって、チーム力向上に努めています。今年こそは、念願の打倒鹿児島すなわち、全国大会優勝を目標に、全力を尽くしていきたいと思います。

◎バレーボール
 夏も近づき、高専大会まであと一週間、前々年と良い成績を残している中、今年も決勝リーグ進出、全国大会進出を目標にがんばっていきたくと思っております。

◎ハンドボール
 我々ハンドボール部は、北岡、瀬戸先生の下、十六名の部員が、七月十日に鹿児島高専で行われる九州大会に向け、練習に励んでいます。今期の部員は、個人的な技術知識のレベルアップに特に力を入れてきており、また、春期の合宿も有効に使うことができ、個人力においては、各人が、かなりの進歩を見せています。今年度の大会では、この「個人力の強さ」で、九州大会に臨みたいと思っております。

高専大会を前にして

◎硬式野球

我々野球部は、宮川先生、吉田先生を中心とし、部員数約30名で成り立っています。今年、高専大会は八代高専であり、打倒大分高専(昨年全国優勝)を目標にがんばっています。二年前の劇的優勝を今年こそ八代で再現してみせます。又今年から高野連加盟により二年以下も、頭を丸めて、夢は大きく甲子園と、ぼくたちが、夢は大きく甲子園と、ぼくたちが、夢は大きく甲子園と、ぼくたちが、

◎ハンドボール

我々ハンドボール部は、北岡、瀬戸先生の下、十六名の部員が、七月十日に鹿児島高専で行われる九州大会に向け、練習に励んでいます。今期の部員は、個人的な技術知識のレベルアップに特に力を入れてきており、また、春期の合宿も有効に使うことができ、個人力においては、各人が、かなりの進歩を見せています。今年度の大会では、この「個人力の強さ」で、九州大会に臨みたいと思っております。

教室通信

機械工学科

◎昭和48年から工作実習(鋳、鍛造)・工学実験の指導に当たっていた後藤義一先生が退職されました。長い間ありがとうございました。◎7837 大牟田市大字吉野927-13 ◎昭和50年から工作実習(木工・フライス)・工学実験の指導に当たっていた高口一三先生が退職されました。長い間ありがとうございました。◎837 大牟田市大字田隈589の2 ◎米多比常世君 43機◎7590-02和泉市光明台3丁目13-1 ◎吉本孝未君 44機◎7802 北九州府小倉北区須賀町11-14 須賀第9マンション202号 田隈093-531-7434 ◎古賀誠一君 46機 転勤口住友重機工業九州営業所(7841 佐賀県鳥栖市藤の木若桜商工団地内 田隈09428-5-1060 ◎7830 久留米市長門石町351-38 田隈0942-33-4508 ◎内田雅隆君 49機 ◎7362 埼玉県上尾市大字上尾村字二ツ宮前846 出光武蔵野寮 田隈0487-75-8795 ◎江頭邦広君 49機 転勤口九州松下電機(株) ◎木下裕治君 49機 ◎7362 上尾市小敷谷1175-16 田隈0487-25-5407 ◎松永紀男君 50機◎7882 延岡市緑ヶ丘1丁目2-1 浜西新社宅4-1 田隈0982-31-1856 ◎近藤羊四郎君 51機◎7836 大牟田市手織197-8-5 田隈0944-51-1255 ◎田中靖則君 53機◎7213 川崎市宮前区向ヶ丘934-6-305 ◎大迫博文君 53機 転勤口南日本総合サービス(株) (7892 鹿児島市住吉町3-5 田隈0992-24-3517) ◎7890 鹿児島市草牟田1-2-13 田隈0992-22-3617 ◎河野勝義君 53機◎7869-05 熊本県宇土郡不知火町大字高良2193-2 田隈0964-33-4314 ◎本松宏海君 55機◎7270-11 千葉県孫子市並木7-4-2 北我孫子荘5号室 ◎深浦治君 56機◎7440 豊橋市弥生町中原3番マルキハイ B-2-C ◎堀 浩二君 58機◎7581 大阪府八尾市北亀井町3-2-17 シャープ早青寮515号 ◎米田一男君 58機◎7229 神奈川県相模原市小町通り1-6-17 日本ビクター相模原清和寮

電気工学科

◎次の方が結婚されました。おめでとうございます。◎濱本太志郎君55電 S57年3月6日に式を挙げられ、新婦は輝代さん(旧姓、緒方)です。住所は今までと同じで次の通りです。7862 熊本市菅原町14の22 ◎堀正広君 50電 S58年3月26日に式を挙げられ、新婦は洋子さん(旧姓、柴田)です。新居 7890 鹿児島市紫原3丁目61の2 田隈0992-56-4313 勤務先 鹿児島女子短期大学 英語科 ◎次の方に住所の変更がありました。◎高吉正治君56電 勤務先 7836 大牟田市新港町1番地46 三井石炭鉱業株式会社 施設部発遣電課 田隈0944-51-1716 住所 7836 大牟田市昭和町305 田隈0944-56-1557 ◎蓮尾巧君51電 日本青年海外協力隊員として、長期にわたり、東南アジアに派遣されておられましたが、今年2月にその任務を終え、帰国されました。住所は次の通りです。7836 大牟田市東萩町2丁目204 田隈0944-54-3175 ◎次の方が学校来訪されました。◎水原誠二君56電 ◎坂本良来君57電 ◎富吉正治君56電 ◎蓮尾巧君51電 ◎濱本太志郎君55電 ◎堀正博君53電

工業化学科

◇小川芳弘先生が、熊本教養部講師に栄転されました。かわって、永室昭三先生が、持田製薬KKより勤められるようになりましたのでお知らせします。永室先生は、熊本理学部の修士課程(有機化学研究室)

◎紙谷伸治君 58機口棒本精工(株)葛城工場機械部 7639-22 奈良県葛城郡当麻町大字尺土19 田隈074548-2891 ◎川原英司君 57機 結婚 昭58.5.3 大牟田ガーデンホテルにて挙式 新婦は高子(ひとこ)さん(旧姓高須) ◎笠 幸一郎 58機 ◎7410-03 静岡県沼津市140 富士通駿河寮334号 ◎入江誠二君 51機 口那覇防衛施設局建設部設備課(7900 那覇市久米一丁目5番地4 田隈0988-68-0174 内線319) ◎7900 那覇市松山2丁目25番地3 大湾マンション305 田隈0988-67-0686

建築学科

◎次の方が結婚されました。おめでとうございます。◎松原秀司君(第9期生) 3月27日新婦影子さん(旧姓金子) 新居 7244 横浜市戸塚区金井町1082-1 B S 下郷アパートNo.3-201 (田隈045-871-7086) ◎渡辺一美君(53建) 転勤 新日本製鐵(株)石製鐵所設備部設備技術室(7026 岩手県釜石市鈴子町23-15 田隈0193-24-3331) ◎7026 岩手県釜石市甲子町第10地割280 新日鐵「白鶴寮」内 田隈0193-23-6981 ◎小川節治君(56建) 住所変更 ◎7111 神奈川県川崎市幸区小倉808の7 ◎吉田信一君(56建) 転勤 電々公社佐賀電気通信部庶務課建築工事係(7840-01) 佐賀市高木瀬町東高木214-1 ◎7840 佐賀市村木町2-10-16 電々公社若竹寮 ◎安部勝司君(57建) 東海リース3月退社 ◎早野豊明君(57建) 転勤 竹中工務店九州支店技術部技術課 ◎7816 福岡県大野城市大字上大利232-2 福岡竹友寮 田隈092-571-2711 ◎吉田豊美君(57建) 井上建築設計事務所(福岡市) 勤務 ◎伊藤泰敏君(58建) ◎7840 佐賀市西与賀町大字屋外914-1 松尾建設寮 田隈0952-22-8890 ◎坂本俊久君(58建) 興興合組(7601 京都市南区吉祥院向田東町8番地 田隈075-313-6533) ◎住所は左に同じ興興合組寮10号室付で退職、村久木志郎さんと2/26に結婚されました。おめでとうございます。◎7813 福岡市東区水谷1丁目16番4の32 田隈092-672-8478 ◎7/21より学科事務は岩本美智代さんにお世話しています。又、村久木さんの後任に4/1付で桑原孝行さんが来られました。二人とも若く、エネルギーな方達です。◎昭和55年から3年間建築史を教授された佐藤正彦先生がやめられました。どうもありがとうございました。

建築学科

◎次の方が結婚されました。おめでとうございます。◎松原秀司君(第9期生) 3月27日新婦影子さん(旧姓金子) 新居 7244 横浜市戸塚区金井町1082-1 B S 下郷アパートNo.3-201 (田隈045-871-7086) ◎渡辺一美君(53建) 転勤 新日本製鐵(株)石製鐵所設備部設備技術室(7026 岩手県釜石市鈴子町23-15 田隈0193-24-3331) ◎7026 岩手県釜石市甲子町第10地割280 新日鐵「白鶴寮」内 田隈0193-23-6981 ◎小川節治君(56建) 住所変更 ◎7111 神奈川県川崎市幸区小倉808の7 ◎吉田信一君(56建) 転勤 電々公社佐賀電気通信部庶務課建築工事係(7840-01) 佐賀市高木瀬町東高木214-1 ◎7840 佐賀市村木町2-10-16 電々公社若竹寮 ◎安部勝司君(57建) 東海リース3月退社 ◎早野豊明君(57建) 転勤 竹中工務店九州支店技術部技術課 ◎7816 福岡県大野城市大字上大利232-2 福岡竹友寮 田隈092-571-2711 ◎吉田豊美君(57建) 井上建築設計事務所(福岡市) 勤務 ◎伊藤泰敏君(58建) ◎7840 佐賀市西与賀町大字屋外914-1 松尾建設寮 田隈0952-22-8890 ◎坂本俊久君(58建) 興興合組(7601 京都市南区吉祥院向田東町8番地 田隈075-313-6533) ◎住所は左に同じ興興合組寮10号室付で退職、村久木志郎さんと2/26に結婚されました。おめでとうございます。◎7813 福岡市東区水谷1丁目16番4の32 田隈092-672-8478 ◎7/21より学科事務は岩本美智代さんにお世話しています。又、村久木さんの後任に4/1付で桑原孝行さんが来られました。二人とも若く、エネルギーな方達です。◎昭和55年から3年間建築史を教授された佐藤正彦先生がやめられました。どうもありがとうございました。

建築学科

◎次の方が結婚されました。おめでとうございます。◎松原秀司君(第9期生) 3月27日新婦影子さん(旧姓金子) 新居 7244 横浜市戸塚区金井町1082-1 B S 下郷アパートNo.3-201 (田隈045-871-7086) ◎渡辺一美君(53建) 転勤 新日本製鐵(株)石製鐵所設備部設備技術室(7026 岩手県釜石市鈴子町23-15 田隈0193-24-3331) ◎7026 岩手県釜石市甲子町第10地割280 新日鐵「白鶴寮」内 田隈0193-23-6981 ◎小川節治君(56建) 住所変更 ◎7111 神奈川県川崎市幸区小倉808の7 ◎吉田信一君(56建) 転勤 電々公社佐賀電気通信部庶務課建築工事係(7840-01) 佐賀市高木瀬町東高木214-1 ◎7840 佐賀市村木町2-10-16 電々公社若竹寮 ◎安部勝司君(57建) 東海リース3月退社 ◎早野豊明君(57建) 転勤 竹中工務店九州支店技術部技術課 ◎7816 福岡県大野城市大字上大利232-2 福岡竹友寮 田隈092-571-2711 ◎吉田豊美君(57建) 井上建築設計事務所(福岡市) 勤務 ◎伊藤泰敏君(58建) ◎7840 佐賀市西与賀町大字屋外914-1 松尾建設寮 田隈0952-22-8890 ◎坂本俊久君(58建) 興興合組(7601 京都市南区吉祥院向田東町8番地 田隈075-313-6533) ◎住所は左に同じ興興合組寮10号室付で退職、村久木志郎さんと2/26に結婚されました。おめでとうございます。◎7813 福岡市東区水谷1丁目16番4の32 田隈092-672-8478 ◎7/21より学科事務は岩本美智代さんにお世話しています。又、村久木さんの後任に4/1付で桑原孝行さんが来られました。二人とも若く、エネルギーな方達です。◎昭和55年から3年間建築史を教授された佐藤正彦先生がやめられました。どうもありがとうございました。

ご卒業になり、小川先生とは、先輩、後輩の間柄だそうです。結婚のおしらせ—おめでとうございませう。◎中村浩君(第12期生) 2月6日新婦広美さん(旧姓中大窪) 新居 7892 鹿児島市坂元町3208 (田隈0992-47-6556) ◎幾田英樹君(第9期生) 3月27日新婦影子さん(旧姓金子) 新居 7244 横浜市戸塚区金井町1082-1 B S 下郷アパートNo.3-201 (田隈045-871-7086) ◎松原秀司君(第9期生) 3月27日新婦影子さん(旧姓金子) 新居 7244 横浜市戸塚区金井町1082-1 B S 下郷アパートNo.3-201 (田隈045-871-7086) ◎渡辺一美君(53建) 転勤 新日本製鐵(株)石製鐵所設備部設備技術室(7026 岩手県釜石市鈴子町23-15 田隈0193-24-3331) ◎7026 岩手県釜石市甲子町第10地割280 新日鐵「白鶴寮」内 田隈0193-23-6981 ◎小川節治君(56建) 住所変更 ◎7111 神奈川県川崎市幸区小倉808の7 ◎吉田信一君(56建) 転勤 電々公社佐賀電気通信部庶務課建築工事係(7840-01) 佐賀市高木瀬町東高木214-1 ◎7840 佐賀市村木町2-10-16 電々公社若竹寮 ◎安部勝司君(57建) 東海リース3月退社 ◎早野豊明君(57建) 転勤 竹中工務店九州支店技術部技術課 ◎7816 福岡県大野城市大字上大利232-2 福岡竹友寮 田隈092-571-2711 ◎吉田豊美君(57建) 井上建築設計事務所(福岡市) 勤務 ◎伊藤泰敏君(58建) ◎7840 佐賀市西与賀町大字屋外914-1 松尾建設寮 田隈0952-22-8890 ◎坂本俊久君(58建) 興興合組(7601 京都市南区吉祥院向田東町8番地 田隈075-313-6533) ◎住所は左に同じ興興合組寮10号室付で退職、村久木志郎さんと2/26に結婚されました。おめでとうございます。◎7813 福岡市東区水谷1丁目16番4の32 田隈092-672-8478 ◎7/21より学科事務は岩本美智代さんにお世話しています。又、村久木さんの後任に4/1付で桑原孝行さんが来られました。二人とも若く、エネルギーな方達です。◎昭和55年から3年間建築史を教授された佐藤正彦先生がやめられました。どうもありがとうございました。

建築学科

◎次の方が結婚されました。おめでとうございます。◎松原秀司君(第9期生) 3月27日新婦影子さん(旧姓金子) 新居 7244 横浜市戸塚区金井町1082-1 B S 下郷アパートNo.3-201 (田隈045-871-7086) ◎渡辺一美君(53建) 転勤 新日本製鐵(株)石製鐵所設備部設備技術室(7026 岩手県釜石市鈴子町23-15 田隈0193-24-3331) ◎7026 岩手県釜石市甲子町第10地割280 新日鐵「白鶴寮」内 田隈0193-23-6981 ◎小川節治君(56建) 住所変更 ◎7111 神奈川県川崎市幸区小倉808の7 ◎吉田信一君(56建) 転勤 電々公社佐賀電気通信部庶務課建築工事係(7840-01) 佐賀市高木瀬町東高木214-1 ◎7840 佐賀市村木町2-10-16 電々公社若竹寮 ◎安部勝司君(57建) 東海リース3月退社 ◎早野豊明君(57建) 転勤 竹中工務店九州支店技術部技術課 ◎7816 福岡県大野城市大字上大利232-2 福岡竹友寮 田隈092-571-2711 ◎吉田豊美君(57建) 井上建築設計事務所(福岡市) 勤務 ◎伊藤泰敏君(58建) ◎7840 佐賀市西与賀町大字屋外914-1 松尾建設寮 田隈0952-22-8890 ◎坂本俊久君(58建) 興興合組(7601 京都市南区吉祥院向田東町8番地 田隈075-313-6533) ◎住所は左に同じ興興合組寮10号室付で退職、村久木志郎さんと2/26に結婚されました。おめでとうございます。◎7813 福岡市東区水谷1丁目16番4の32 田隈092-672-8478 ◎7/21より学科事務は岩本美智代さんにお世話しています。又、村久木さんの後任に4/1付で桑原孝行さんが来られました。二人とも若く、エネルギーな方達です。◎昭和55年から3年間建築史を教授された佐藤正彦先生がやめられました。どうもありがとうございました。

建築学科

◎次の方が結婚されました。おめでとうございます。◎松原秀司君(第9期生) 3月27日新婦影子さん(旧姓金子) 新居 7244 横浜市戸塚区金井町1082-1 B S 下郷アパートNo.3-201 (田隈045-871-7086) ◎渡辺一美君(53建) 転勤 新日本製鐵(株)石製鐵所設備部設備技術室(7026 岩手県釜石市鈴子町23-15 田隈0193-24-3331) ◎7026 岩手県釜石市甲子町第10地割280 新日鐵「白鶴寮」内 田隈0193-23-6981 ◎小川節治君(56建) 住所変更 ◎7111 神奈川県川崎市幸区小倉808の7 ◎吉田信一君(56建) 転勤 電々公社佐賀電気通信部庶務課建築工事係(7840-01) 佐賀市高木瀬町東高木214-1 ◎7840 佐賀市村木町2-10-16 電々公社若竹寮 ◎安部勝司君(57建) 東海リース3月退社 ◎早野豊明君(57建) 転勤 竹中工務店九州支店技術部技術課 ◎7816 福岡県大野城市大字上大利232-2 福岡竹友寮 田隈092-571-2711 ◎吉田豊美君(57建) 井上建築設計事務所(福岡市) 勤務 ◎伊藤泰敏君(58建) ◎7840 佐賀市西与賀町大字屋外914-1 松尾建設寮 田隈0952-22-8890 ◎坂本俊久君(58建) 興興合組(7601 京都市南区吉祥院向田東町8番地 田隈075-313-6533) ◎住所は左に同じ興興合組寮10号室付で退職、村久木志郎さんと2/26に結婚されました。おめでとうございます。◎7813 福岡市東区水谷1丁目16番4の32 田隈092-672-8478 ◎7/21より学科事務は岩本美智代さんにお世話しています。又、村久木さんの後任に4/1付で桑原孝行さんが来られました。二人とも若く、エネルギーな方達です。◎昭和55年から3年間建築史を教授された佐藤正彦先生がやめられました。どうもありがとうございました。

建築学科

◎次の方が結婚されました。おめでとうございます。◎松原秀司君(第9期生) 3月27日新婦影子さん(旧姓金子) 新居 7244 横浜市戸塚区金井町1082-1 B S 下郷アパートNo.3-201 (田隈045-871-7086) ◎渡辺一美君(53建) 転勤 新日本製鐵(株)石製鐵所設備部設備技術室(7026 岩手県釜石市鈴子町23-15 田隈0193-24-3331) ◎7026 岩手県釜石市甲子町第10地割280 新日鐵「白鶴寮」内 田隈0193-23-6981 ◎小川節治君(56建) 住所変更 ◎7111 神奈川県川崎市幸区小倉808の7 ◎吉田信一君(56建) 転勤 電々公社佐賀電気通信部庶務課建築工事係(7840-01) 佐賀市高木瀬町東高木214-1 ◎7840 佐賀市村木町2-10-16 電々公社若竹寮 ◎安部勝司君(57建) 東海リース3月退社 ◎早野豊明君(57建) 転勤 竹中工務店九州支店技術部技術課 ◎7816 福岡県大野城市大字上大利232-2 福岡竹友寮 田隈092-571-2711 ◎吉田豊美君(57建) 井上建築設計事務所(福岡市) 勤務 ◎伊藤泰敏君(58建) ◎7840 佐賀市西与賀町大字屋外914-1 松尾建設寮 田隈0952-22-8890 ◎坂本俊久君(58建) 興興合組(7601 京都市南区吉祥院向田東町8番地 田隈075-313-6533) ◎住所は左に同じ興興合組寮10号室付で退職、村久木志郎さんと2/26に結婚されました。おめでとうございます。◎7813 福岡市東区水谷1丁目16番4の32 田隈092-672-8478 ◎7/21より学科事務は岩本美智代さんにお世話しています。又、村久木さんの後任に4/1付で桑原孝行さんが来られました。二人とも若く、エネルギーな方達です。◎昭和55年から3年間建築史を教授された佐藤正彦先生がやめられました。どうもありがとうございました。

二十周年記念行事準備報告 ③

「高専だより」五十一号で報告した準備状況のその後について、先づ二十周年行事事業のための寄附の応募状況を簡単に報告すると、昭和五十八年五月十日現在で、卒業生約四百名から金額にして約二百万円の芳志が寄せられている。各学科の卒業生総数の約20%の方が既に申込み済みである。何かの都合でまだ応募いただいていない卒業生も多いと推測されるので実行委員会としては、或る時期を定めて更に御協力方をお願いする予定である。

尚、本校教職員にも実行委員会の寄附を募ったところ、校長以下全教職員がその主旨に応えて約百万円を寄せることとなった。二十周年誌編集刊行事業のその後について、内外の関係各位の御協力のお蔭で原稿は既に全部揃って編集割付作業も最終段階にあるとき、思いがけず貴重な資料をわざわざ送って頂いた。

二十周年記念

学生歌歌詞発表

さきに募った学生歌歌詞の応募は一六一篇の多き上った。その中から、三次にわたる選考を経て入選二篇、佳作六篇を選んだ。入選歌詞を次に掲げる。

- 希望 3 E 上村 千幸
一、日ごとの空に仰ぎ見る
郷土の光、秋尾台
希望の胸をはりながら
いつも明るくはげみ合う
我ら有明高専生
二、青く連なる山脈は
- 三池連山、小岱山
希望ののじを仰ぎつつ
若い命をたえよう
我ら有明高専生
- 穂波ゆたかな田に畑に
木の実輝く野に山に
はばたく夢をいだきつつ
若い力を育てよう
我ら有明高専生
- 運ける道 本園 裕二
運き道 歩み行く雄雄しき若人
時に我を顧み 友に学び

ていただいた退職教官、卒業生諸子には関係者一同感銘を受け心から感謝していること。予定した頁数を越え、編集委員の苦勞も格別といったところではないだろうか。

今春卒業の諸君と在校生の御父兄に対する購入案内も発送が終了記念品の準備、モニメント作製の準備も着々進行中である。

各方面の御理解と御協力のお蔭で本事業の準備が着実に進行していることを御報告できることを心から有難く思うとともに、今後高一層の御支援をお願いする。

新たな希望 燃えたつ氣迫
日に新たに
なお運けき夢を指ささん
運き道 ともに行く雄雄しき若人
時来たりて岐れ路に立とうとし
ゆるがぬ信頼 永久の友情
かたくりつなきて
なお運けき道を行かん

第14回定期演奏会を終えて

実行委員長 4 E 副島 誠康

本校呼奏楽部の定期演奏会も、今年で14回目を迎え、一月二十九日(日)に大牟田市市民会館で盛大に開かれました。

今年には二十五名という部員数で例年より多いため、大曲をやりたいという考えのもとに、第一部ではベートーベンの「運命」第一楽章などを演奏し、第二部では、皆に親しみのある曲も、吹奏楽にはあるということを知っていたいただき、たいと「少女A」や「北酒場」などを演奏しました。

まだまだ未熟ながらも観客に楽しんでもらえたと思います。

いろいろと問題をかかえていることは事実ですが、一つ一つ解決し、15回、20回と頑張っていくつもりです。

最後にになりましたが、この演奏会のために御協力して下さった裏方をはじめ、すべての方々に、この場をかりて、感謝いたします。



▲優秀賞作品 (35mm×60mm)

バイク通学生用ステッカー図案コンクール 優秀賞に 5 E 村上君

交通問題が社会の大きな問題となつていくことは今更言うまでもないことで、本校にもバイク通学生が二〇名いること、交通違反特に速度違反が後を断たぬことなどから、学生諸君が交通問題に一層関心を深めるよう願つて学生会企画行事(主室室協力)としてバイク通学生用ステッカーの図案を学生一般から募集したところ、次の諸君の作品が優秀賞及び入選に選ばれ、四月八日の五十八年度始業式の後でその表彰式が行われた。五十八年度バイク通学生は優秀作ステッカーを使って通学している。地色は黄色でATCの三文字が図案化されて学年毎に色を違えてあり、従来のものより一まわり小さくなった。

- 優秀賞 5 E 村上 博
入選 5 E 村田 真也
5 C 永松 哲雄
5 A 松尾 功二
4 E 中村 重治
3 A 岩永 博
3 A 内山 嘉章
3 A 運本 英樹

編集後記

○昭和五十八年度が始つてから早くも二ヶ月経つ。今年には本校創立二十周年に当り、成人式を迎えた青年のような責任と自覚を覚える恒例の入学式、卒業式の校長の式辞を掲載したが、本校の教育に対する姿勢がよく読み取れる。保護者の皆様には是非目を通して欲しい。学生はこんなことを大切にしなければならぬということ。

○オリエンテーションを無事終えて、新入生諸君の高専生活が愈々軌道に乗つてくる頃、初心を忘れずに、大きな器に、そして力強く心根の優しい人物に育つて欲しい。天草での生活について、担任の先生とともに、少し書いてもらった。○五十七年度を顧みて各担任に書いていただいたことを簡単にささめてみた。各担任の日常の努力と心労を代弁しているかどうか覚束ないが、御家庭の皆様には是非御一読願ひ、将来ある青年のために一緒に考えてもらいたいと思う。

○今回は先輩の海外雄飛の体験談をいただくことができた。世界の今の日本の生き方が体験を通して語られている。学生諸君に大いに参考になると思う。

○今年が本校にとって稔りある年になる様、工夫と努力を重ねたい皆様の相変らずの御指導と御鞭撻をおねがいする。

昭和五十七年度末には環境開発教育研究施設が稼働し始めると共に環境風洞空気取入口上屋と外壁が完成し、次年度への持越工事は完成部の塗装工事と、風洞内の風速分布の均一性を得るための、整流案内板の調整作業程度となり、外形的建設工事は一段落した。

1 環境開発教育施設
一階にある地震災害シミュレーション装置は、垂直震動発生装置等未完成部分を残してはいるが、水平震動発生装置の据付が完了し、活発に震動解析が行われている。

また環境分析第2実験室に於ては、4年工業化学・建築の両科の学生に対し、ガススクロマトグラフ装置によるガス分析を、学生実験の形で指導している。

総合実習レポート (18)



【特別講義】 エネルギー構造の将来と省エネルギー
九州大学教授 西川兼康先生

水の微量成分分析や、電池用二酸化マンガンの分析に威力を発揮し始めた。

なお、アルゴンプラズマ発光分光分析は高価で未だ一般に普及していないため、JISの分析法に採用されていないため、環境分析には原子吸光スペクトル分析も欠かせないと判断から、この装置を工業化学科から移設した。

以上が環境開発研究センターの

は大牟田市沖積低地の地盤調査が昭和五十七年度から実施された。地盤、地震、海水の地域に関する三研究に対しては、文部省から特定研究の指定を受け、研究費の補助を受けた。

従来も総合実習の一環として、実験室廃水処理を実施していたが、東京の某大学放射線科の写真現像廃液の盗難事件発生に伴い、その無償下取り禁止通達があったため、新たに銀回収の実験を開始するが、有償下取りの契約を写し、何分にも、有償下取りの前例がないため、一応回収実験を開始したが、含銀濃度が低く、回収銀の純度も不十分で、今後の改善を要するが現状である。

2 建設段階から整備段階へ
新産業指定都市大牟田・荒尾地区の公害問題対策を中心とした環境風洞を皮切りに環境開発教育施設等の建設は昭和五十七年度で一応の完成を見たが、地震シミュレーション垂直震動装置の導入増強、風洞センサー移動装置や整流板(ガイドベーン)の整備調整等、今後の研究に備えて、内部設備の充実拡充を、研究教育と併行して行う時期に来たと見えてくる。

内部設備の増設や、各種の周

表-2 昭和57年度後期総合実習経過表

実習項目	10			11			12			1			2			3			M	E	C	A	小計
	10	20	30	10	20	30	10	20	30	10	20	30	10	20	30	10	20	30					
基礎基礎工事	■																					15	15
環境風洞工事																			58	19		38	115
風洞及び付帯設備設計																			66	22		310	398
工作部プロジェクト室制作																						56.5	56.5
地質調査シミュレーション室ピット設計																							
鉄管製作	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	376	125		50	50
振動台ベンキ堂工事																						27	27
接着剤及び熱分解実験																						109.5	109.5
大牟田周辺地質調査																						43.5	43.5
アンケート調査																						46	46
通算累計										500	166	695.5	1,813										
年間累計										1,018.5	311	1,245.5	2,273.5										

るガス分析である。
また環境開発教育センターの開設に伴う研究についても、学生実験と卒業研究の双方の班が、それぞれの実験を行っている例として、アルゴンプラズマ分光分析が当該である。

また、内容が一層研究的課題に近いものは卒業研究学生班が、卒業研究の時間割に従って、教官と共に実験することになる。教官の研究課題や特定研究として、文部省の補助金を受けた課題では、当然この形の卒業実験でなければ学生が継続して実験に従事できないばかりでなく、能力的にも時間割の点からも、五年生以外では実施出来ないであろう。

但し、五年生以外の学生実験について、総合実習の一環として行わせている課題が、三年生の物理実験の課題一つを削減して行われるとき、総合実習の方の課題の方が、物理実験より一層学生にとって有意義であるとか、現在でも物理実験の課題が多過ぎるから、一部を学制的課題に置き替るべきだ、との明確な判断によって実施されたとは言えないであろう。

ただこの時間割内の相互交流が、物理実験の教課課程を圧迫して有害であるとか、総合実習の課題が、学生の工学卒業生としての資質形成に無効であるとか、積極的に否定的な結果は、先般の在校生に対するアンケート調査から

も出ておらず、むしろ肯定的意見がやや多かったようである。

然しながら最近の学生実験を見ると、(二年生の物理実験の内容は筆者の担当でないのだけれど担当として)筆者の担当の四年生の物理化学学生実験では、同じ期間に逆行出来る課題数が、一ないし二課題減少し、実験報告書の内容も貧弱になって来ているので、建設段階をほとんど終えた現時点での総合実習課題に対し、もう一度教育内容の検討が行われるべきであろう。

b、総合実習センターの性格
国立大学の大部分には、各学部とは独立して、付属研究機関と各種施設があるのが普通である。前者の例には、地震研究所、航空宇宙研究所と言った特定の研究対象が掲げられており、後者の施設には、アイソトープセンター、電子計算機センター、分析センター等がある。更に両者の中間の内容に近いけれども、特定の学部に近い機関には、火山研究所、臨海実験所、癌センター等がある。

これ等の機関にはそれぞれ文部省から、定員と予算が配当されている。学部にも所属した、付属農場や牧場でも、予算と定員はある。それに対比して、本校を初めとする総合実習センター及び、昭和五十六年度完成した、環境開発教育施設には、予算と定員がないし、付属研究機関と同様な研究が出来

る設備がありながら、教育施設であって研究機関ではない。

教官に研究に益する場所と設備を設け、学生にセンターに行けば良い機械や新しい設備で、地域に功獻出来る実験実習が出来ると言う、夢と希望を与えるべき施設として、全校的努力と永年にわたる校費を注入した実習センターが、それ自身が大きくなり、活況に活動すれば、あたかも癌の様に、本体である有明高専を瘦せさせるべき構成になっているのは、誠に矛盾している。文部省にはこの苦悩が判って貰いたいものである。

c、建設期から収獲期に臨んで
全校的な費用の悩みや、教職員学生の奉仕的努力が衰へ、間もなく基本建設は終了、実験研究の開始に伴い、やがて成果を収獲し始めるのも遠い将来ではなくなった。そして研究題目も、公害規制の法制化に従って実験室廃水処理、石油危機に際しては太陽熱利用の研究、湯布院の地震災害後には、東海大地震対策発表と共に地震震動の研究と、省エネルギー対策等の時代の流れと、国家的対応が刻まれていて、それ等の研究題目が総合実習センターの研究として纏められており、それなりの進捗や成果があった。

然し、総合実習センター委員の内から、最近研究者の顔振れと研究題目が固定化して来て、新しい方々の参加、別個の研究題目の提

起がほとんどなく、研究者の年齢構成が偏って、若手の参加が少なく、縦断的構成でなくなつて来て居る。また各学科や専門分野にわたる共同参加や学際的研究の傾向が弱まっている様に思える。

各委員は学科内に関心を喚起して欲しいとの意見が出て来た。勿論、従来は建設が主体の時期であり、従来の研究課題が簡単に完結しない情勢では、顔振れや題目が固定する傾向も表れようし、若手の方々も、研修先大学の先生の指導の課題等に努力すべき状況に在るから、若手の参加が少ないうのもうなづけるが、他人の提起した問題にも理解を示し、副論文の課題とする、位の包容力と協調性が求められることも考えねばならぬであろう。個人研究には、

設備と研究費に限度があることも事実である。
文部省は、戦後新制大学が多数発足する際に、大学に地域的特性を求めたし、今回の教課課程改訂に際しても、各工業高専に対して、各校毎の特色を持つことを望んだ。学問に地域性は馴染まないかも知れぬが、研究には北海道大学の氷雪研究、水品加工産業のあつた山梨大学には、人造水品を始めたとした、人工宝石の研究が育つた。

従って本校の特色も、教課課程の編成の内から、また工業英語の如く課外活動から発揮されるものであろうが、各科の教官構成の内、自づから個人の得意とする専門があり、また有明新産都市とその周辺の風土物産の中にも、本

校の特色を染め上げる要因がある。

一方四十億を超す地球の人口は、エネルギーと資源の枯渇を招きつつある。
石炭も陶土も掘り盡しつ、あり石炭山が消えた話もある。
技術の進歩は電気計算機や電話、テレビの放送さえも、レーザーやガラス繊維や光学素子に変えつつあり、遠からず技術教育の内容に変革をもたらすであろう。その過度的教育課程を、現行の教育課程の様に、一度定めると五年間変更出来ぬ、や、窮屈な課程編成の枠外の、実習センターの課題に盛るのは賢明な策かも知れぬ。(工業化学科 勝田)

起がほとんどなく、研究者の年齢構成が偏って、若手の参加が少なく、縦断的構成でなくなつて来て居る。また各学科や専門分野にわたる共同参加や学際的研究の傾向が弱まっている様に思える。

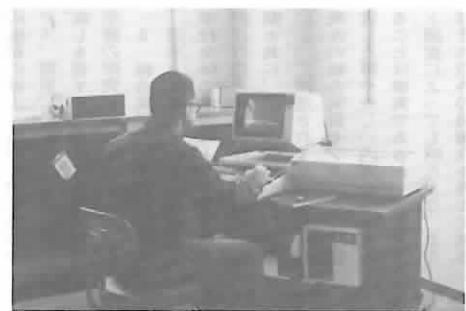


写真2. エネルギー関係第2実験室
マイクロコンピュータ



写真3. 環境汚染第2分析室
高周波アルゴンプラズマ分析装置